

第3次

糸島市水産振興計画(案)

「糸島の自然を活かした漁業の持続的発展」



福岡県糸島市
令和8年 月

目 次

第1章 水産振興計画の基本的な考え方	1
第1節 計画策定の趣旨	1
第2節 計画の位置づけ	1
第3節 計画期間	2
第2章 基本理念と目標	3
第1節 基本理念	3
第2節 基本目標	3
第3節 基本施策	4
(1) 安全・安心な漁港整備と自然環境を活かした漁場づくり	4
(2) 水産物の更なるブランド化の推進	4
(3) 安心して住むことのできる活気あふれる漁村づくり	4
第3章 糸島市の自然環境	5
第1節 位置と地勢、人口	5
第4章 水産業を取り巻く環境	7
第1節 海の環境	7
第2節 漁場環境の変化	8
第3節 都市化と魚離れ	8
第4節 その他水産業のリスク要因	9
第5章 糸島市の水産業の現状と課題	10
第1節 漁港	10
第2節 水産業の現状	10
第3節 漁業地域と就業者	10
第4節 主な漁業種類	12
第5節 漁獲量と漁獲金額	13
第6節 魚価の低迷	15
第6章 施策及び取組内容	16
第1節 安全・安心な漁港整備と自然環境を活かした漁場づくり	16
第2節 水産物の更なるブランド化の推進	16
第3節 安心して住むことのできる活気あふれる漁村づくり	18
資料① 市内各漁港の港勢と概要	資料.P 1
資料② プレジャーボート係留数の推移	資料.P 7
別紙 - 1 漁港施設長期整備計画	
別紙 - 2 漁業生産施設長期整備計画	

第1章 水産振興計画の基本的な考え方

第1節 計画策定の趣旨

糸島市は、山、川、田園、海岸線、海と自然に恵まれています。水産資源においても、豊かな玄界灘、唐津湾から新鮮で多様な水産物を供給することにより、食文化を支えてきました。

古来より、我が国は、稲作に適した温暖・湿潤な気候と周囲を海に囲まれた国土条件により、米や魚を中心とした食生活を営んできましたが、戦後の高度成長期以降、農山漁村から都市部へ人口は流出し、生活スタイルも洋風化が進み、消費者は簡単・便利・低価格な食材を求めるようになりました。

こうした食のグローバル化が進む一方、健康意識の高まり等により、日本食が見直され、最近ではより安全で安心な地元の食材を求める消費者が増えています。

豊かな自然と生態系の中で営まれる本市の水産業は、まさに消費者が求める「安全・安心」で「新鮮」な食材を提供することができます。

なかでも本市の漁業は、唐津湾と沖合に広がる玄界灘の好漁場に恵まれ、ごち網や釣り、養殖によって、タイやサワラ、カキをはじめ多種多様な水産物を供給しています。

しかしながら、近年顕在化してきた海洋環境の変化をはじめとする地球規模の環境変化の中で、全国的な漁業生産量の減少、魚介類の消費量低迷、更には燃油等の高騰に伴い漁業経営は厳しくなっています。そのため、漁業従事者数も減少しており、地域活力の低下が懸念されています。

本計画は、SDGs（持続可能な開発目標）の14「海の豊かさを守ろう」の理念に沿って、持続可能な開発のために海洋・海洋資源を保全していくことを念頭に、これまでに実施された成果を踏まえつつ、本市の漁業の持続的な発展と、安全・安心な水産物を永続的に供給するため、漁業振興と漁村の活性化に向けた水産関係の総合的な取組の施策を計画するものです。

第2節 計画の位置づけ

本計画は、本市の第2次糸島市長期総合計画に基づく水産業の振興に関する部門別計画であり、「水産業の活性化」「水産物のブランド強化」「担い手育成」などの水産業関係施策を計画的、総合的に実施していくための指針とし、効率的な事業の推進を図るためのものとします。

また、水産業関係施策は人、風土、海を結び合わせて行う必要があるので、以下に掲げる他の分野別計画と連携するものとします。

さらに、水産庁が策定した新たな水産基本計画（令和4年3月閣議決定）

及び福岡県農林水産振興基本計画（令和4年3月策定）と整合性を図るものとします。

◆第2次糸島市長期総合計画

基本目標5：ブランド糸島で活気あふれるまちづくり

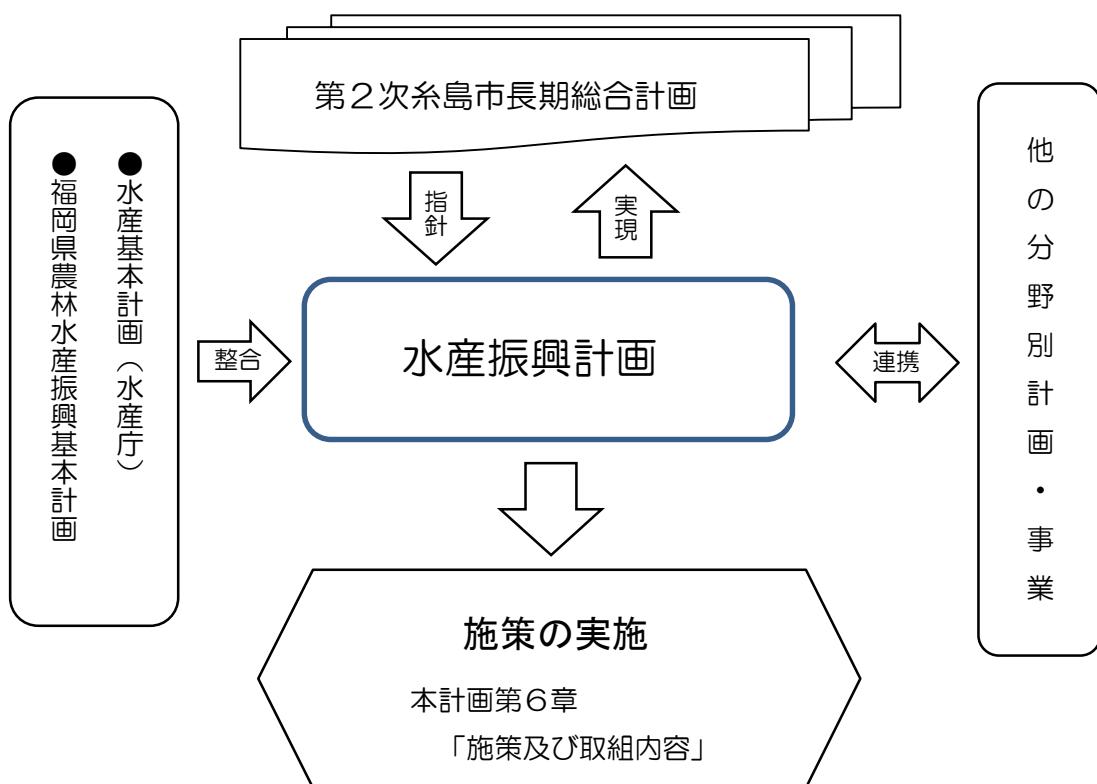
※連携する他の分野別計画

- ・糸島市農力を育む基本計画
- ・糸島市観光振興基本計画

◆水産基本計画（水産庁）

◆福岡県農林水産振興基本計画

【水産振興計画の位置づけイメージ】



第3節 計画期間

計画期間は、令和8年度から令和12年度までの5年間とします。

第2章 基本理念と目標

第1節 基本理念

本市は令和3年度から令和12年度までを第2次糸島市長期総合計画の期間と定め、水産業の振興のために、「水産業の活性化」「水産物のブランド強化」「担い手育成」という施策を実施してきました。

また、今後は食に関する本市の他の計画と連携し、市民の食と漁業の結びつきをより深めていきます。

玄界灘と唐津湾の豊かな自然環境を活かした本市の漁業を、漁業者の所得向上と後継者育成によって持続的に発展させ、季節感のあふれる新鮮な旬の水産物を消費者に提供するという漁業の役割をふまえて、

「糸島の自然を活かした漁業の持続的発展」

を本計画の基本理念とし、その実現を目指します。

第2節 基本目標

漁業が直面している水産資源の減少と燃油や経費の増大、従事者の高齢化などの課題に対応するためには、糸島で獲れた水産物の自給率を向上させること、消費者が求める安全・安心な旬の食材の提供を行うことによる所得の向上が最も重要です。

そこで『漁業』『食料』『漁村』についてそれぞれの将来像を基本目標としました。

漁業：安全・安心な漁港整備と自然環境を活かした漁場づくり

回遊する魚介類を漁獲するために、機能的で安全・安心な漁港整備及び漁場づくりを進めていきます。

食料：水産物の更なるブランド化の推進

「糸島」の認知向上により、糸島の水産物を求める消費者が増加しています。糸島漁協と連携し「糸島カキ」や「特鮮 本鰯」「天然マダイ」「天然ハマグリ」の他、更なるブランド化を目指します。

漁村：安心して住むことのできる活気あふれる漁村づくり

漁港・漁村は、漁業生産の拠点であるとともに住民の生活の場であり、漁港の機能性に加えて安全性の確保が求められています。市では「災害に強い漁港」「防災機能の強化」に向け漁港施設の整備を進めるとともに、6次産業化の推進と都市との更なる交流を目指し、活気あふれる漁村づくりを進めます。

第3節 基本施策

基本目標を達成するため、福岡県や糸島漁協、関係課、大学などの研究機関等と連携し取り組みを進めます。

(1) 安全・安心な漁港整備と自然環境を活かした漁場づくり

脊振山系の森林から発する河川水が流れ込む唐津湾は、干潟が形成され、ハマグリ、カキなどの貝や藻類が豊富です。沖合には、対馬暖流と沿岸水が交じり合う玄界灘が広がり、多くの魚が季節に合わせて回遊しながら、生育、産卵しています。この恵まれた水産資源を利用するため、基地となる漁港の機能向上と生産に必要な施設整備を行います。さらに海底耕耘や、食害生物の駆除等によって漁場の生産力を高めるとともに、海域の特性に合わせた貝類や藻類の養殖業を振興します。

- ①漁港施設の整備
- ②漁業生産施設の整備
- ③食害生物の駆除

(2) 水産物の更なるブランド化の推進

「糸島カキ」「特鮮 本鰯」「天然マダイ」「天然ハマグリ」など水産物の更なるブランド化、知名度向上を目指すとともに、加工品などの6次産業化を推進し、糸島産水産物のPRと消費拡大を目指します。

- ①糸島産水産物のブランド化の推進
- ②漁業の6次産業化と所得向上

(3) 安心して住むことのできる活気あふれる漁村づくり

漁港及び海岸保全施設の整備・保全を行い、災害に強い漁港を維持するとともに、都市住民と地域から生み出される食を結びつけ、様々なイベントを行うことによって都市部との交流人口増加と地域水産業の活性化を推進し、安全で活気あふれる漁村づくりを目指します。

- ①魚しょく普及活動の推進
- ②漁業就業者の育成と確保
- ③防災力の強化

第3章 糸島市の自然環境

第1節 位置と地勢、人口

本市は九州北西岸のほぼ中央にあって、福岡都市圏の西部に位置します。市北部の糸島半島は玄界灘に突き出ており、市の中央部は引津湾、船越湾、西部は唐津湾に面しています。さらに市の北西には壱岐・対馬があって対馬海峡となっています。

南には佐賀県境となる脊振山系がそびえ、東から井原山(983m)、雷山(955m)、二丈岳(711m)、浮嶽(805m)、十坊山(535m)に連なった山は唐津湾の中央にまでせり出しています。

標高千メートルに近い山々には上昇気流が生じ、雨が降りやすくなります。この脊振山系に源を発した瑞梅寺川、雷山川、長野川、一貴山川が北に流れ、糸島平野の水田地帯を潤しています。このうち瑞梅寺川は福岡湾の西にある今津湾に、雷山川は平野部の志登から泊にかけて西流し、泉川となって（唐津湾の東端の）加布里湾に注いでいます。この加布里から泊周辺にかけて古くは海でしたが、川土砂の流入によって埋め立てられ干拓地となっています。加布里周辺は干潟が発達し、貝類の生息場となっています。

市の北西4キロの玄界灘に姫島があります。



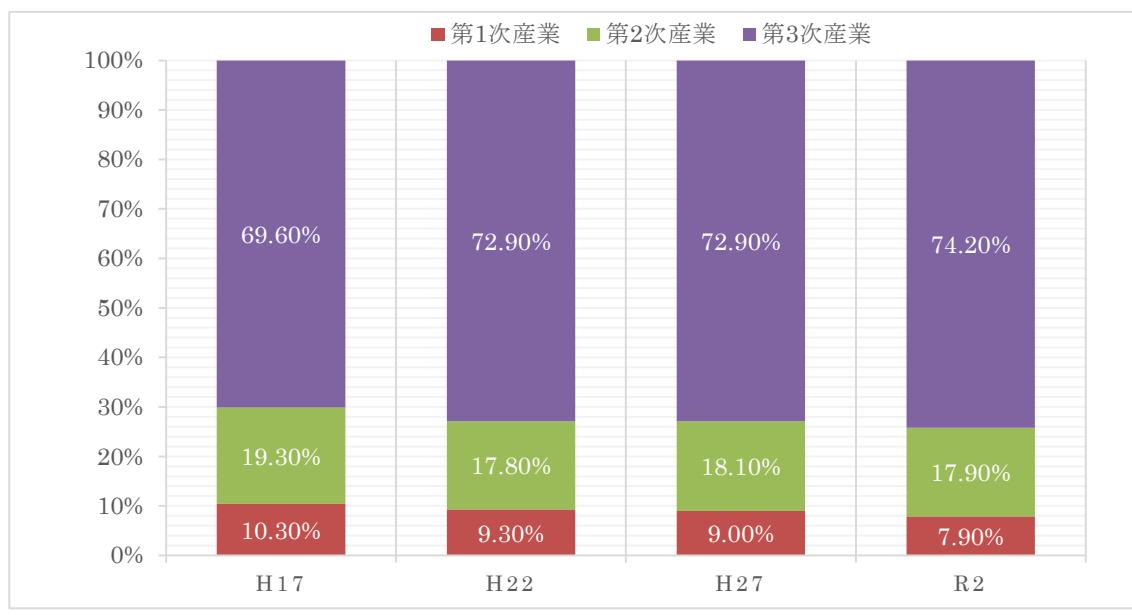
表1 糸島市の人口及び年齢階層別人口の推移

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
人口	101,450人	101,665人	102,434人	102,936人	103,562人	103,655人
65歳以上人口	29,165人	29,702人	30,320人	30,882人	31,083人	31,439人
割合	28.7%	29.2%	29.6%	30.0%	30.0%	30.4%
15歳未満人口	13,892人	13,969人	14,196人	14,329人	14,388人	14,347人
割合	13.7%	13.7%	13.9%	13.9%	13.9%	13.8%

出典：住民基本台帳(各年3月末の人口)

表2 糸島市の就業者人口の推移

	H17	H22	H27	R2
就業者数	46,848人	45,794人	45,717人	49,626
第1次産業	10.3%	9.3%	9.0%	7.9%
第2次産業	19.3%	17.8%	18.1%	17.9%
第3次産業	69.6%	72.9%	72.9%	74.2%



出典：国勢調査

第4章 水産業を取り巻く環境

第1節 海の環境

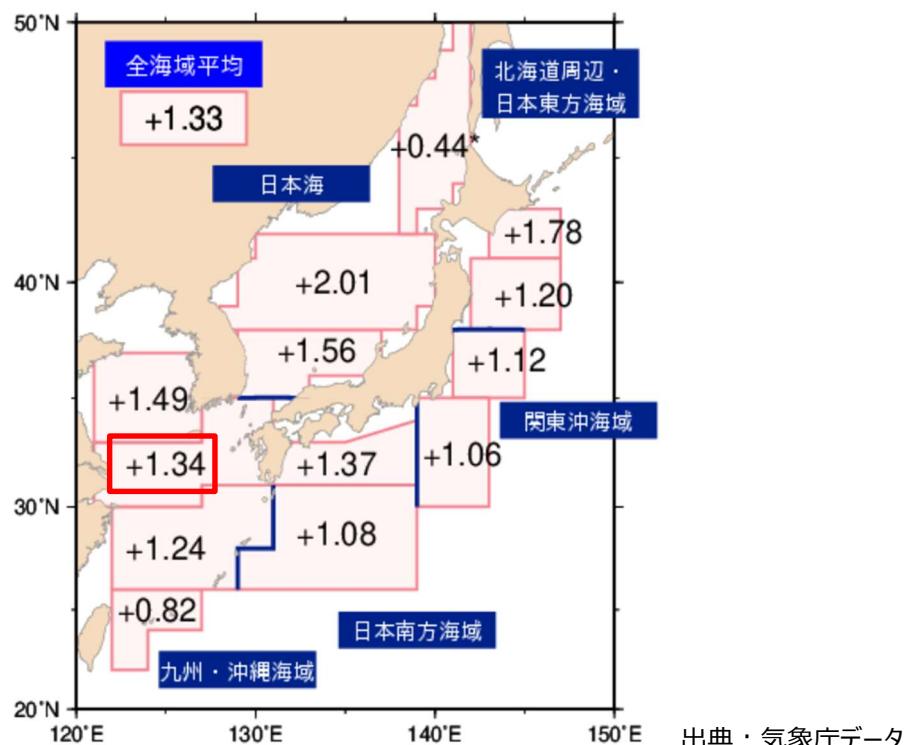
本市の漁業は唐津湾と玄界灘、壱岐周辺および対馬の東側海域（対馬東水道）で操業されます。これらの漁場は対馬暖流の影響を強く受けています。

対馬暖流とは黒潮の表層水が奄美大島付近で分岐して浅い大陸棚の上を通りながら中国大陸の沿岸水と九州沿岸水と混じり合って潮目を作り、対馬海峡を通って日本海に流入している海流です。対馬暖流の水温や塩分は気象や洪水など大陸沿岸水の影響を受けています。

中国大陸や九州の沿岸水は大量の栄養塩を含んでおり、海水が春と秋に上下混合することによって、プランクトンの大増殖を促します。その結果、本市周辺海域には暖海性の浮魚*資源、底魚*資源の産卵場、生育場となり、全国的にみても屈指の好漁場が形成されています。

しかし、対馬暖流の水温は季節によって変動し、長期的にみると、水温の上昇が続いている。本市が面する東シナ海北部海域では、過去100年間でおよそ1.34°Cの上昇が確認されています。

図1 日本近海の海域平均海面水温の上昇率(°C/100年)



「浮魚」海面近くの表層と中層を回遊する魚類。イワシ類、マアジ、サバ類、ブリなど
「底魚」海底とその近辺に生息する魚類。マダイ、イサキ、エソ、フグ類、ヒラメなど

第2節 漁場環境の変化

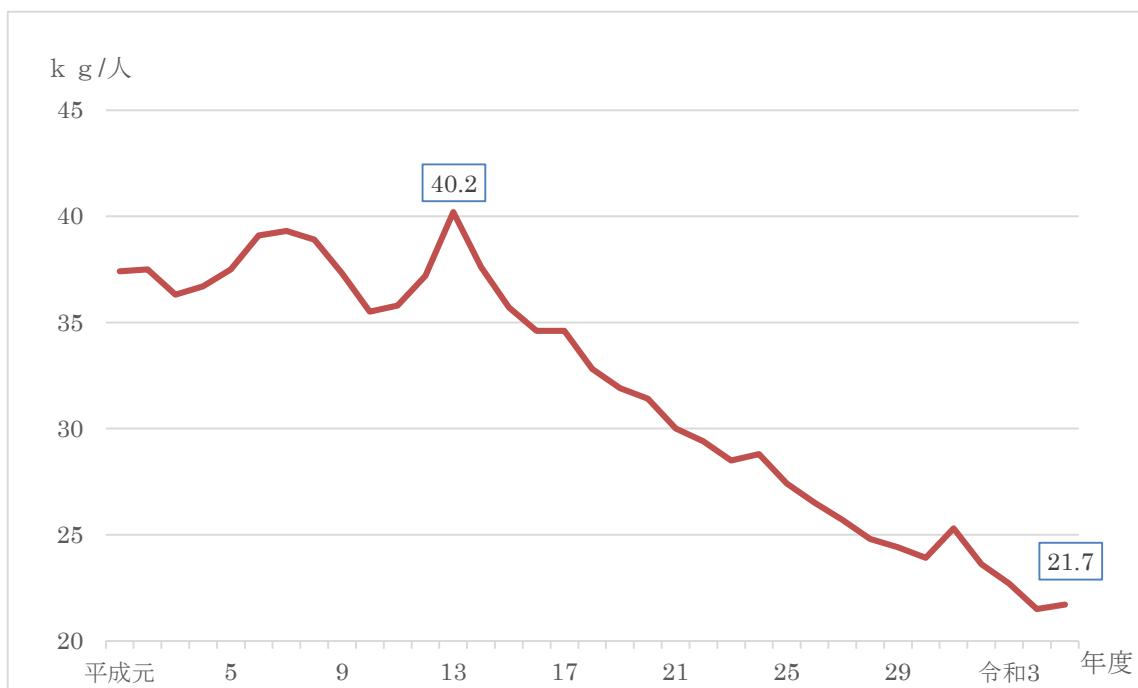
藻場や干潟は、「海のゆりかご」とも呼ばれ、多くの魚介類（稚魚、稚貝）の産卵場、成育場、隠れ家、そして豊富な餌場として極めて重要な役割を果たしています。しかし、本市を含む多くの地域で、藻場・干潟の減少が進行しています。これは、アワビやウニ、海草類の生息場や魚介類の成育場の減少の原因となっており、大学などの研究機関と連携して原因の究明や対策の実施が必要となります。

第3節 都市化と魚離れ

人々の嗜好の変化、調理の手間などから魚離れが進んでいるため、地元産の魚介類に触れ、食べる機会を創出し、市民の地元産の魚介類に対する知識を深めることや糸島産水産物のブランド化による糸島産品の価値向上と消費拡大が求められています。

しかし、栄養バランスに優れた「日本型食生活」は、パン食の増大により米の消費が減少し、これに併せて魚介類の消費量も減少しています。こうした変化の要因は都市化や消費者の利便性、簡便性、低価格志向によるものと思われ、今後は魚食の普及や、魚や漁業に触れ合う機会を提供し、市民の漁業に対する理解を深める必要があります。

図2 食用魚介類の1人1年当たり消費量（純食料）



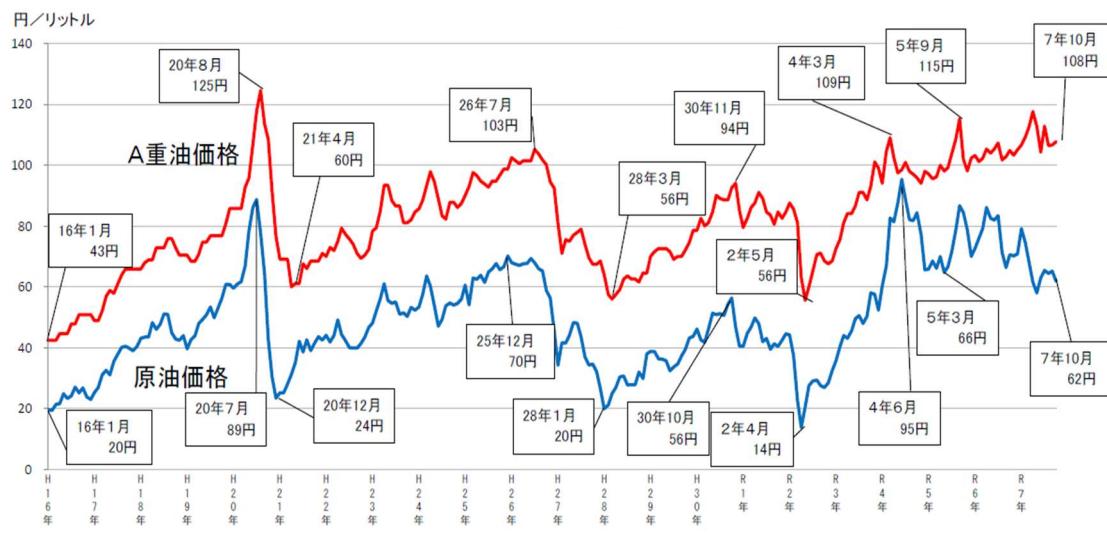
出典：農林水産省「食料需給表」

第4節 その他水産業のリスク要因

i 操業コストの上昇と単価

漁業経営のなかで、燃油の占める割合は高く、世界経済や投機マネーによる価格変動に影響されやすく、その高騰は漁業経費の増大に繋がっています。また、魚価は横ばい、または下落傾向にあるため、燃料費による漁業経営の圧迫が懸念されます。

図3 A重油価格(毎月1日)及び原油価格(月平均)の推移 令和7年11月5日現在



ii 気候変動と海水温の上昇

東シナ海北部における海域平均海面水温は、海洋環境の変化をはじめとする地球規模の環境変化により、2024年までの100年間で1.34°C上昇しています。このような高水温による海洋生物に対する影響は、南方系魚介類の九州海域への北上となって現れ、南方系のウニであるガンガゼや藻を食べるアイゴ、イスズミが増加し藻場が減少しており、漁獲にも大きな影響が出ています。

また、近年は気象、海象変動の影響により、波高の増大及びこれに伴う施設被害が報告されており、災害リスクの増大が懸念されています。

iii 海洋ゴミ、漂着ゴミ問題

海洋投棄されていると思われるペットボトル等のプラスチックゴミが、対馬海流に乗って九州北岸に漂着し、本市沿岸域や海岸線にも数多く漂着しています。漂流・漂着ゴミの量は年々増加しており、糸島沿岸域におけるごち網漁や定置網漁への影響が大きくなるほか、漁港内や海岸域の漂着ゴミの処理についても、漁業関係者の大きな負担となっています。

第5章 糸島市の水産業の現状と課題

第1節 漁港

糸島市内には、10 の漁港（野北・姫島・芥屋・岐志・船越・加布里・深江・大入・福吉・鹿家）があります。

漁港は、水産物の供給基地であり、生活の場でもあり、近年多発する地震、津波等の減災対策や老朽化した施設の整備が求められています。

また、漁業体験やカキ小屋等での漁業者との交流を通じて市民の漁業への理解を促進し、市民の憩いの場として、福岡市などの都市部住民との交流の場としても機能を充実させていくことが必要となります。

第2節 水産業の現状

糸島漁協は、平成 13 年度に 8 漁協の内 6 漁協が合併、平成 17 年度に残りの 2 漁協も合併しています。

漁業の中心は沿岸漁業ですが、その内水揚げの約半数の 53% を占めるごち網（曳網）漁業は、糸島漁協の主幹漁業であり、このごち網漁業の好不漁が糸島の漁業の盛衰を決めることになります。

近年、漁業環境の悪化や水産資源の減少による水揚げの低下から、漁業経営体数は平成 30 年に 329 経営体あったものが令和 5 年には 303 経営体へと減少しています。

また、陸揚量は年によって漁獲物に豊凶があるものの令和 5 年は 2,700 トン、陸揚金額は、24 億 100 万円（令和 6 年度漁港港勢調査）となっています。

他にも、昭和 63 年頃から始まったカキ養殖はごち網漁業の漁閑期である冬場の漁業として、11 月から翌年 3 月頃まで冬の風物詩と言われる焼きカキ小屋が建ちならび、令和 6 年度には年間 52 万人が訪れています。

第3節 漁業地域と就業者

糸島漁協の組合員数は、平成 17 年度合併当時は 494 人でしたが、令和 6 年度末は 352 人であり、142 人の減となっています。主な要因は、高齢化による減少です。

漁業就業者については、全国的に減少傾向にありますが、本市においても漁業の高齢化が進み就業者数（海上従事者数）は平成 30 年 403 人から令和 5 年では 388 人となり 15 人の減少となっています。親から子へ、新規就業者など漁業後継者をどのように育成していくかが課題になっています。

令和6年度末の組合員の年齢別構成は、29歳以下24人(6.8%)、30歳から59歳以下142人(40.4%)、60歳以上186人(52.8%)と高齢化が進んでいます。

儲かる漁業の推進や、直売所、カキ小屋に見る6次産業化を推進し、安定的な漁業所得や女性の就労機会の確保が求められています。

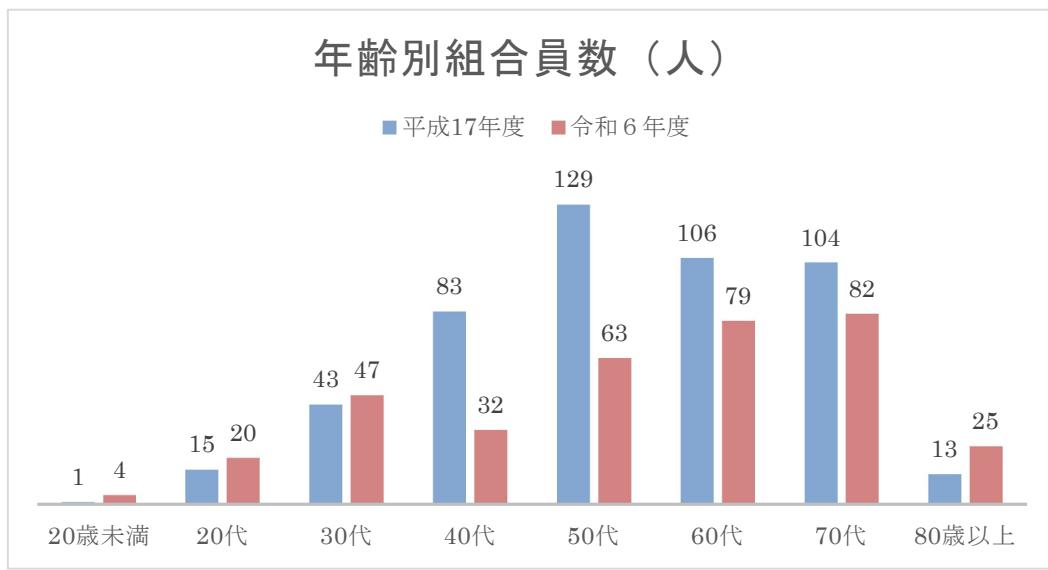
表3 組合員・漁家・漁業経営体数の推移

	R1	R2	R3	R4	R5
組合員数(人)	385	393	388	377	362
経営体数(体)	330	330	332	314	303
海上従事者数(人)	396	402	377	346	388
登録漁船(隻)	461	446	445	445	437

出典：漁港港勢調査

表4 組合員の年代別表

年代	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80歳以上	合計
人数(人)	4	20	47	32	63	79	82	25	352
割合(%)	1.1	5.7	13.4	9.1	17.9	22.4	23.3	7.1	100



出典：糸島漁協業務報告書

- 60歳未満の組合員が166人で全体の47.2%、60歳以上の組合員が186人52.8%となっております。

第4節 主な漁業種類

●ごち網漁業

二隻で行う二双ごち網は、網をひいて漕ぎ締めをし、すくい上げるような形で魚を引きいれる漁法で、主にタイ、イカ、カワハギ、エゾ等が漁獲されます。一隻で行う一双ごち網も同様で主にタイ、キス等を漁獲します。

●カキ養殖漁業

漁閑期となる冬場の漁業として昭和63年頃からカキ棚筏の設置が始まり、市内6地区でカキ養殖が行われています。岐志、船越、加布里、福吉の各漁港ではカキ小屋が立ち並び、令和6年度には年間52万人もの観光客が来訪するなど、本市の焼きカキは冬の風物詩となっています。

●底びき網漁業

袋状の網を砂礫地帯の海底に密着させ低速度で1時間程度漕ぐ漁法で主に車エビ、カレイ、ヒラメ等を漁獲します。

●釣り漁業

はえ縄釣りは約1kmの糸に枝針を付け海底に沈めたり、中層に張ったりして、タイ、フグ、ブリ、アナゴ、カサゴ、アマダイ等を漁獲します。

引き縄釣りは竿を立てて低速で進みながらサンマや疑餌でサワラ、ヒラス、スズキ等を漁獲します。

●刺網漁業

網を海底に張り、魚類が移動するところを、三重網に絡ませてタイ、ヒラメ、イサキ、キス、コチ、カサゴ等を漁獲します。

●かご漁業

イカかごは、はえ縄方式でかごを仕掛けておきイヌツゲに産卵にきたコウイカがかごの中に入ったものを漁獲します。

フグかごは、はえ縄方式で餌をかごに入れ、入ったカナトフグを漁獲します。

●採介漁業

海岸の磯場を海土（あま）漁でアワビ、サザエ、ウニ、ワカメ等を漁獲します。干潟ではハマグリ、シジミ漁が行なわれています。

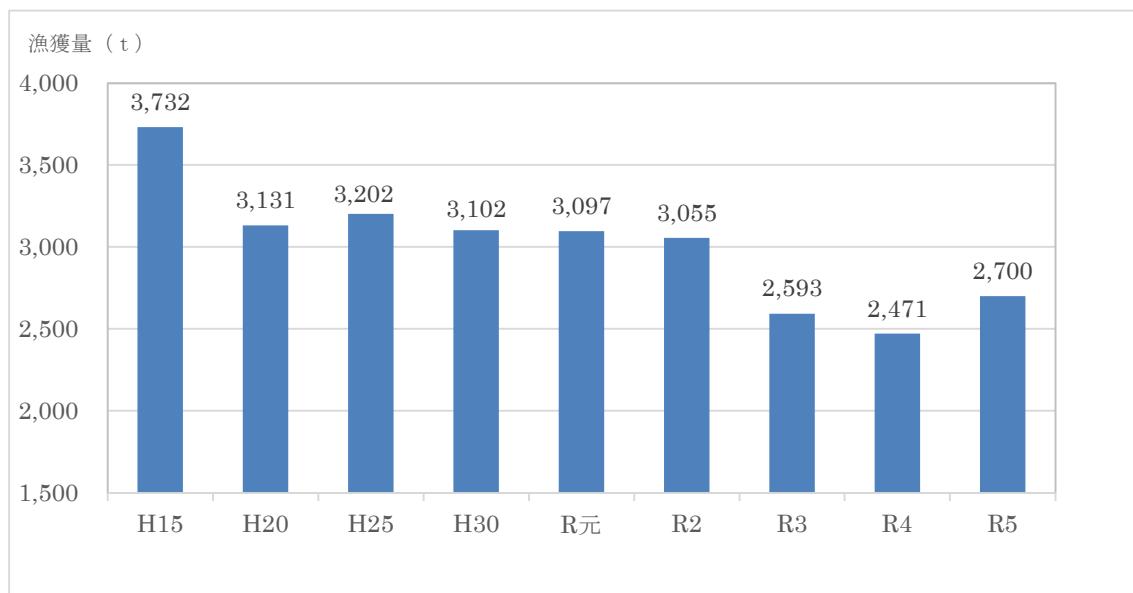
●定置網漁業

岸近くから沖に向かって一直線に網を張り、沖側の囲網に誘い込み箱網に追い込んで主に、ブリ、アジ、イカ、トビウオ等、回遊魚を漁獲します。

第5節 漁獲量と漁獲金額

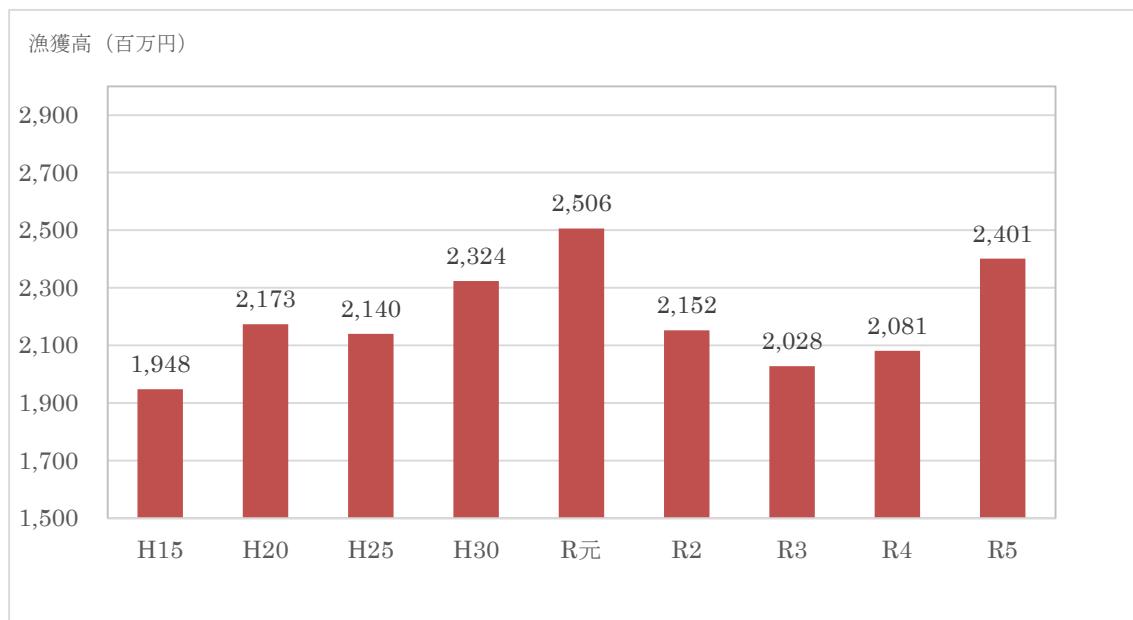
令和5年の漁業と養殖業の漁獲量は、2,700 トンです。漁業種類別にみると、ごち網漁業が 1,443.6 トンで全体の約 53%を占めています。次いでカキ養殖漁業の 561.3 トンで全体の 21%となっています。

表5 糸島市の漁獲量の推移



出典：漁港港勢調査

表6 糸島市の漁獲金額の推移



出典：漁港港勢調査

表7 糸島市の漁業種類別漁獲量の推移

(単位: t)

区分	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5
合計	3,187.4	3,102.2	3,097.3	3,055.0	2,592.6	2,471.2	2,700.0
ごち網	1,854.2	1,773.2	1,691.0	1,783.2	1,275.0	1,260.7	1,443.6
カキ養殖	500.3	502.5	531.7	477.6	483.4	479.9	561.3
底びき網	31.0	33.0	37.1	29.5	11.2	18.4	28.1
釣り	290.5	203.4	204.9	240.6	273.8	257.9	194.7
刺網	32.7	60.8	60.5	66.2	65.7	56.5	53.7
かご	43.0	46.2	34.3	18.8	57.5	24.4	35.1
採介	74.8	89.3	87.8	87.6	67.8	53.3	49.2
定置網	83.4	65.7	61.3	66.5	95.2	67.2	92.2
その他	277.5	328.1	388.7	285.0	263.0	252.9	242.1

出典: 漁港港勢調査

表8 糸島市の魚種別漁獲量の推移

(単位: t)

区分	H29	H30	R元	R2	R3	R4	R5
合計	3,187.4	3,102.2	3,097.3	3,055.0	2,592.6	2,471.2	2,700.0
タイ類	1,016.1	1,228.7	1,193.8	1,414.4	1,039.2	1,073.8	1,233.7
カキ	498.2	501.1	536.3	478.6	484.0	480.5	565.3
ハギ類	502.7	419.1	233.0	192.3	128.9	101.6	78.4
サワラ類	227.2	163.0	229.4	192.5	226.7	195.4	157.2
エソ類	58.6	45.7	57.3	36.5	32.2	26.3	25.1
イカ類	57.8	61.3	51.7	26.3	69.5	34.6	42.7
ブリ類	46.2	40.1	48.2	39.5	32.4	17.8	21.5
イサキ	51.3	61.0	44.6	86.1	59.6	65.2	78.4
海藻類	47.5	44.7	48.0	40.8	29.5	31.1	31.7
エビ類	7.8	24.0	6.0	5.7	6.2	6.8	9.4
その他	674.0	513.5	649.0	542.3	484.4	438.1	456.6

出典: 漁港港勢調査

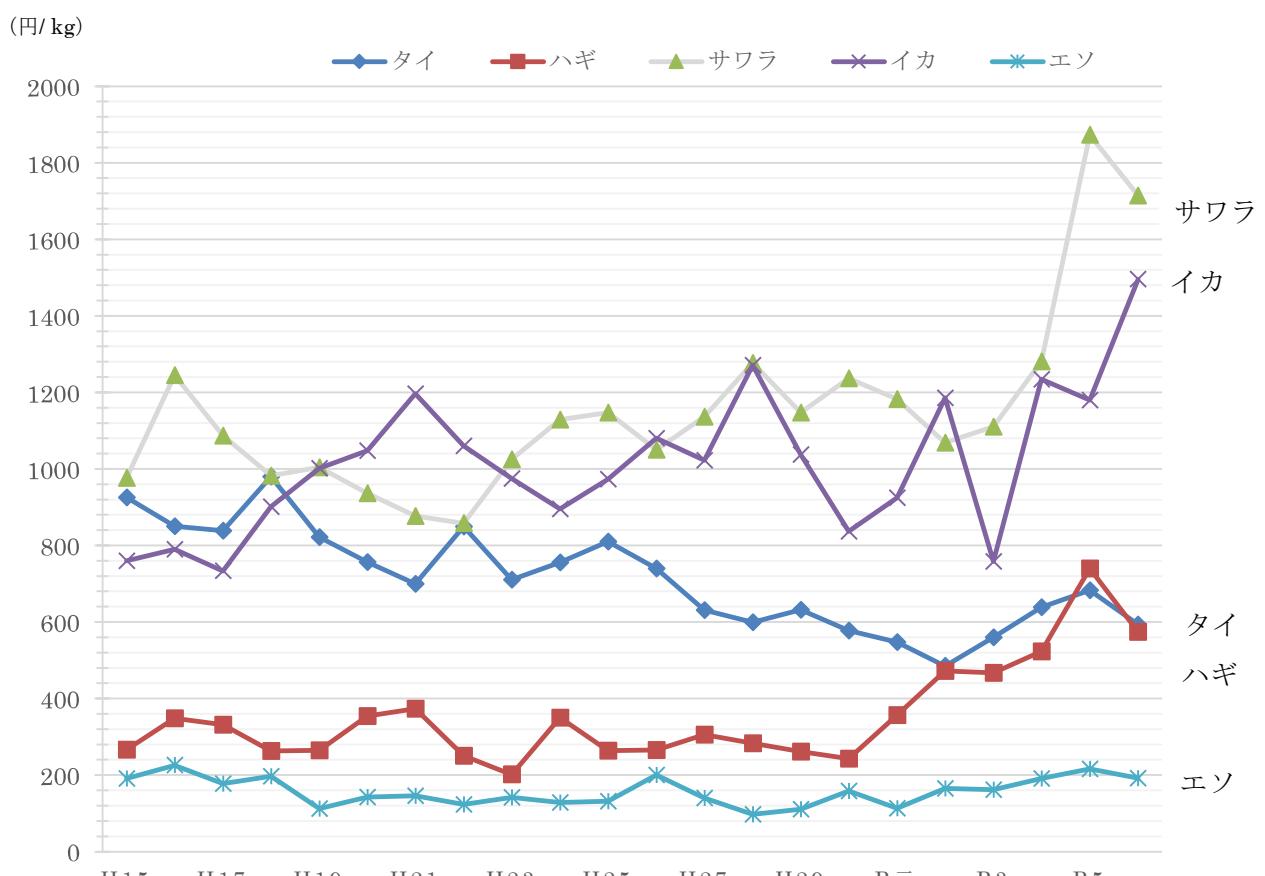
魚種別では、ごち網漁業で漁獲されるタイ類が最も多く、令和5年は1,233.7 tでした。中でもマダイの漁獲量は、全国トップクラスを誇っています。同様に、ごち網漁業の漁獲物であるハギ類とエソ類も多く漁獲されます。カキの漁獲量は、年間500 t前後で推移しています。

第6節 魚価の低迷

魚価の推移をみると、沿岸の水産物として重要なタイでは、ピーク時のキロ単価 980 円から 593 円(約 40%)に低下しました。イカは、1,200 円前後、エソは 200 円前後、ハギは直近 5 年は 500 円前後となっています。

一方、サワラについては、「特鮮 本鰯」としてブランド化したことにより徐々に単価が上昇し、1,700 円前後で比較的高値となっています。

図4 魚価の推移



出典：糸島漁協

第6章 施策及び取組内容

第1節 安全・安心な漁港整備と自然環境を活かした漁場づくり

① 漁港施設の整備

漁港は、水産物の供給基地であり、漁船を安全に係留するスペースを有します。また、海が荒れた時には漁船以外の船舶等の避難場所となります。

その他、漁港背後の集落を津波・高潮から保護、災害時の物資の積み卸し拠点、小さな魚の養育場としての機能、離島や辺地における定期船の就航、海を監視する等、たくさんの役割があります。

各漁港の越波対策及び暴風対策など国県の事業を活用しながら積極的に行い、災害に強い、安全で安心な漁港施設を整備します。また、老朽化した岸壁等の保全工事や物揚場の嵩上げなどの整備を計画的に実施していきます。(別紙ー1 「漁港施設長期整備計画」 参照)

② 漁業生産施設の整備

漁業生産施設の整備については、漁協組合員の経費削減となる施設や生産性の向上に繋がる施設で、糸島漁協が事業主体となって実施する共同利用施設設置事業に対して支援していきます。

実施にあたっては、国県の補助等を積極的に導入しながら、計画的に事業を推進します。(別紙ー2 「漁業生産施設長期整備計画」 参照)

③ 食害生物の駆除

魚介類の産卵や稚魚・稚貝の生育の場である藻場を荒らす食害生物の繁殖は、アワビ、ワカメ等の魚介類の水揚げに大きく影響があり、その駆除を行っていくことは、市民の食を守るためにも重要な取り組みです。海の環境の悪化を防ぐため、国の漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業などを活用し、これらの活動を通して漁場を守ります。

更に、アワビ、ウニなどの種苗放流や漁獲サイズを適切に管理することで再生産が可能となる持続的な漁場利用のため、つくり育てる漁業を推進します。

項目	基準値(R6)	目標(R12)
食害生物の駆除数	48,000 個	42,000 個

第2節 水産物の更なるブランド化の推進

① 糸島産水産物のブランド化の推進

新鮮で安全・安心な商品、旬でおいしい魚介類等、顧客の求めるものを

提供し、糸島産水産物の消費拡大を図ります。糸島漁協や地元食品加工会社等と連携し、地元産の魚介類を使った商品の開発など、農漁商工が連携して糸島産品の水産物や水産加工品のブランド化の推進を図るとともに、関係課等と連携しながら、市内外や海外に向けた効果的な情報発信に取り組みます。

また、カキ、ハマグリ、フトモズク、アカモクなど、地域や海域の特性に合わせた商品をPRし、各漁港地域の振興を図ります。

項目	基準値(R6)	目標(R12)
ブランド商品数	23品	29品



左から味噌トリュフ鯛、味噌バター鯛、味噌ゆず鯛

② 漁業の6次産業化と所得向上

糸島の冬の風物詩として、多くの観光客も来訪するなど、カキ小屋が盛況となっています。漁業者自らが生産した水産物を用いた加工品などを、直売所やカキ小屋で提供するなど、6次産業化の取組が進んでいます。

今後も、糸島産水産物のブランド化とインターネット販売の拡大などの新しい販路の開拓について、福岡県や糸島漁協、関係課等と連携した支援に取り組み、漁業者の所得向上を目指します。

項目	基準値(R6)	目標(R12)
水揚金額	21.3億円	22.5億円

第3節 安心して住むことのできる活気あふれる漁村づくり

① 魚しょく普及活動の推進

「魚しょく」とは、魚全般にわたって親しみを持ってもらうことを目的とした言葉で、「魚食」「魚触」「魚殖」「魚色」「魚職」などさまざまな意味を持っています。この「魚しょく」により水産物の消費拡大を図るため、さわらフェアなどを、福岡県や糸島漁協等と連携して実施していきます。

また、魚しょく普及活動の一環として他団体と連携し、魚の生態等を学べる体験学習や出前講座の実施、学校給食への食材納入を推進します。

項目	基準値(R6)	目標(R12)
実施回数	4回/年	6回/年



② 漁業就業者の育成と確保

漁業就業者については、全国でも減少傾向にありますが、本市においても漁業の高齢化が進み就業者（海上従事者）は388人となっています。漁業機器等の購入に対する支援や、新規就業者のサポートを福岡県や糸島漁協と連携して行うことで、漁業就業者育成の取り組みを進めます。

また、経営感覚のある人づくりや漁業未婚者とのマッチングの場、出会いの場等を提供し、後継者の育成を図るとともに、女性が働きやすい環境を整備することで、女性の就労を含めた新たな担い手の確保を目指します。

項目	基準値(R6)	目標(R12) 累計
新規就業者数	9人/年	83人

③ 防災力の強化

地震、津波対策として岸壁の改修など安心して係留できる漁港施設を整備し、漁村地域の居住者や就労者、来訪者の安全を確保するための施設整備や海岸保全施設整備を計画的に実施していきます。（別紙－1「漁港施設長期整備計画」 参照）

資料① 市内各漁港の港勢と概要

【野北漁港】

漁港名	野北	所在地	福岡県糸島市志摩野北
種別	第2種		
組合員数	43人		
漁業経営体数	36		
海上従事者	39人		
漁船隻数	48隻		
生産量	166.4トン		
生産金額	155百万円		
主要漁業種	ごち網		
	釣り		
	採介		
主要魚種	タイ		
	サワラ		
	イサキ		
(概要)			
糸島半島北部、福岡市と隣接し年間を通して釣り客が訪れている。漁業の中心は、一双ごち網、釣り、採介漁業で沿岸域から小呂島周辺の玄界灘を中心にタイ、サワラ等を水揚げしている。また、防波堤の整備後、港内での蓄養、カキ養殖が行なわれている。			

【姫島漁港】

漁港名	姫島	所在地	福岡県糸島市志摩姫島
種別	第1種		
組合員数	50人		
漁業経営体数	37		
海上従事者	58人		
漁船隻数	51隻		
生産量	165.4トン		
生産金額	233百万円		
主要漁業種	釣り		
	定置網		
	刺網		
主要魚種	サワラ		
	タイ		
	ヒラメ		
(概要)			
姫島は周囲3.8Kmの島で周囲はアワビ、ウニ等の良港な漁場となっている。漁業の中心は、釣り、刺網、採介漁業で多種多様の漁業が操業されている。また、ウニ本来の甘みを堪能できる「海士の極」などのブランド化が取り組まれている。			

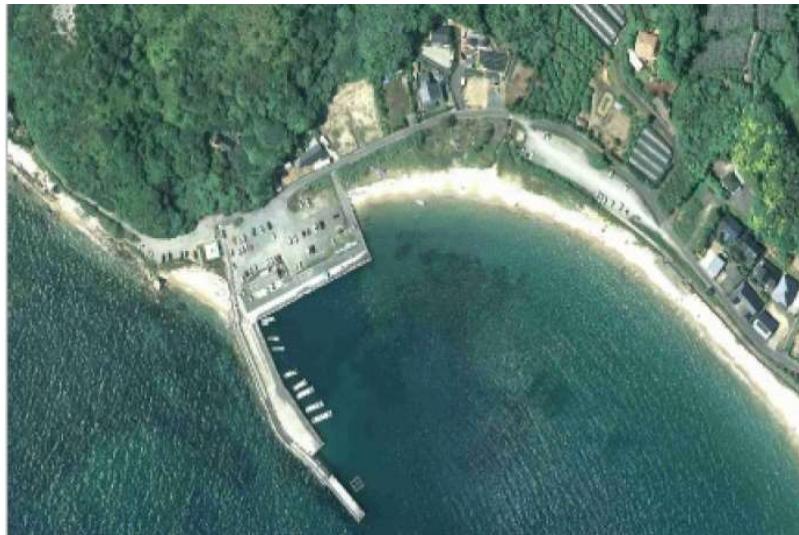
【芥屋漁港】

漁港名	芥屋	所在地	福岡県糸島市志摩芥屋
種別	第1種		
組合員数	38人		
漁業経営体数	35		
海上従事者	41人		
漁船隻数	56隻		
生産量	72.3トン		
生産金額	99百万円		
	採介		
主要漁業種	釣り		
	刺網		
	ワカメ		
主要魚種	イカ		
	サザエ		
(概要)			
芥屋漁港は、芥屋、福ノ浦の2地区から形成されており、採介漁業が全体の37%を占めワカメ、サザエ等を多く水揚げしている。芥屋地区は名勝「芥屋の大門」の観光船の発着港でもあり、漁港周辺の旅館・民宿では漁獲物が提供されている。福ノ浦地区では、糸島産ふともずくの養殖が行われている。			

【芥屋地区】



【福ノ浦地区】



【岐志漁港】

漁港名	岐志	所在地	福岡県糸島市志摩岐志		
種別	第2種	【岐志地区】			
組合員数	39人				
漁業経営体数	34				
海上従事者	42人				
漁船隻数	45隻				
生産量	267.0トン				
生産金額	265百万円				
主要漁業種	カキ養殖	【新町地区】			
	ごち網				
	釣り				
主要魚種	カキ				
	タイ				
	ハギ				
(概要)					
漁業の中心は、5月～12月までのごち網漁業で沖ノ島から長崎県壱岐の玄界灘を中心にタイ、ハギ等を漁獲している。昭和50年代盛んであったタイ養殖の筏を利用し、カキ養殖を始めた。今では、冬の風物詩、漁閑期の産業としてカキ小屋が立ち並び多くの来客者で賑わっている。					

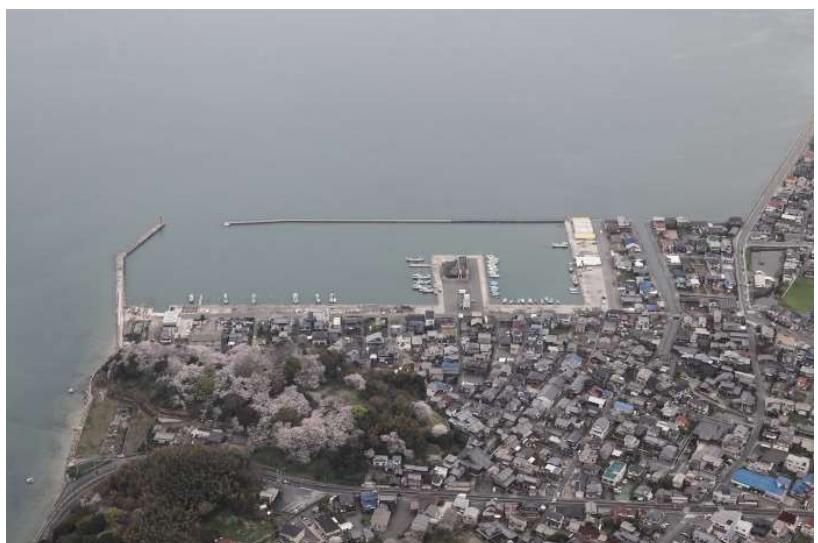
【船越漁港】

漁港名	船越	所在地	福岡県糸島市志摩船越
種別	第2種		
組合員数	85人		
漁業経営体数	74		
海上従事者	80人		
漁船隻数	94隻		
生産量	965.0トン		
生産金額	777百万円		
主要漁業種	ごち網		
	カキ養殖		
	釣り		
主要魚種	タイ		
	カキ		
	ハギ		
(概要)			
漁業の中心は、5月～12月までのごち網漁業で沖ノ島から長崎県壱岐の玄界灘を中心にタイ、ハギ等を漁獲し船越支所全体の水揚量の47%を占めている。また、加工製品としてカキやマダイの加工が行なわれている。冬場の産業としてカキ小屋が立ち並び多くの来客者で賑わっている。直販施設「JF糸島志摩の四季」や「伊都菜彩」に多く魚介類を出荷し消費拡大を図っている。			



【加布里漁港】

漁港名	加布里	所在地	福岡県糸島市加布里
種別	第2種		
組合員数	23人		
漁業経営体数	18		
海上従事者	6人		
漁船隻数	29隻		
生産量	126.2トン		
生産金額	129百万円		
主要漁業種	カキ養殖		
	底びき網		
	釣り		
主要魚種	カキ		
	ハマグリ		
	エビ		
(概要)			
国内でも希少な天然ハマグリが干拓に生息しており、厳しい資源管理に取り組んでいる。また、湾を利用したカキ養殖が行なわれカキやハマグリの直販が盛況となっている。漁船漁業では底びき網、釣漁業でエビ、サワラ等が水揚げされている。			



【深江漁港】

漁港名	深江	所在地	福岡県糸島市二丈深江
種別	第1種		
組合員数	13人		
漁業経営体数	12		
海上従事者	2人		
漁船隻数	21隻		
生産量	30.1トン		
生産金額	25百万円		
主要漁業種	定置網		
	ワカメ養殖		
	カキ養殖		
主要魚種	ワカメ		
	カキ		
	キス		
(概要)			
定置網漁業を主体に操業がなされキス、イカ等が水揚げされている。また、冬場の漁業として、ワカメ、カキ養殖を行い直売所での販売を行い、6次産業化を進めている。			



【大入漁港】

漁港名	大入	所在地	福岡県糸島市二丈福井
種別	第1種		
組合員数	1人		
漁業経営体数	1		
海上従事者	一人		
漁船隻数	一隻		
生産量	一トン		
生産金額	一百万円		
主要漁業種	一		
	一		
	一		
主要魚種	一		
	一		
	一		
(概要)			
戦時中飛行艇の訓練基地として整備され、現在はプレジャーボートが38隻係留されている。(令和7年3月31日時点)			



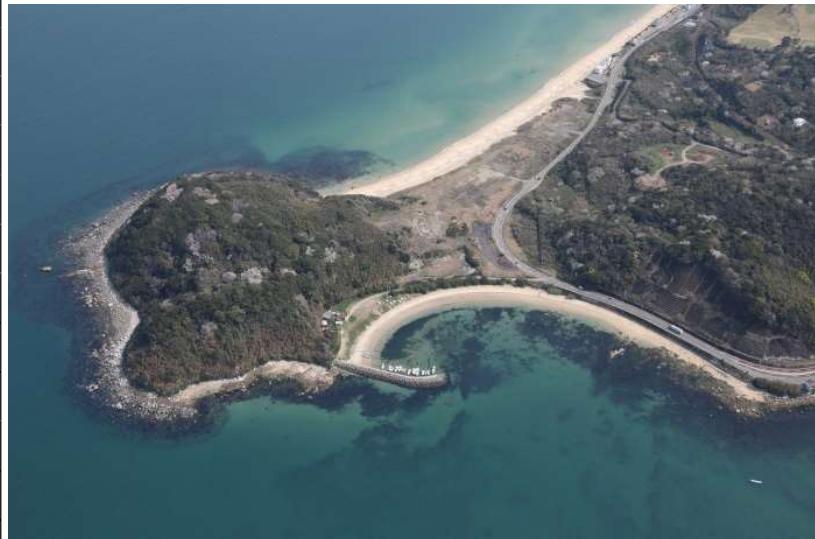
【福吉漁港】

漁港名	福吉	所在地	福岡県糸島市二丈福井
種別	第1種		
組合員数	68人		
漁業経営体数	54		
海上従事者	120人		
漁船隻数	92隻		
生産量	907.6トン		
生産金額	718百万円		
	ごち網		
主要漁業種	カキ養殖		
	釣り		
	タイ		
主要魚種	カキ		
	イサキ		
(概要)			
漁業の中心は、5月～12月までのごち網漁業で県下でも有数の水揚げを誇っている。冬場の漁閑期は魚類養殖からカキ養殖に転換し、カキ小屋が立ち並び多くの来客者で賑わっている。			
直販施設「福ふくの里」では水揚げされた魚介類が販売され、都市と農漁村を結ぶ重要な役割を果たしている。			



【鹿家漁港】

漁港名	鹿家	所在地	福岡県糸島市二丈鹿家
種別	第1種		
組合員数	2人		
漁業経営体数	2		
海上従事者	一人		
漁船隻数	1隻		
生産量	一トン		
生産金額	一百万円		
	一		
主要漁業種	一		
	一		
	一		
主要魚種	一		
	一		
	一		
(概要)			
福岡県と佐賀県の県境に位置しており、平成5年ころまでは採貝藻漁業が営まれていた。現在はプレジャーボートが19隻係留されている。(令和7年3月31日時点)			



資料② プレジャーボート係留数の推移

(単位:隻)

漁港等名	H 3 0	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5	R 6
岐志漁港	116	109	110	114	118	116	114
加布里漁港	19	18	18	18	18	18	18
深江漁港	16	13	12	10	10	10	10
大入漁港	49	48	46	42	38	37	38
福吉漁港	4	4	2	2	2	2	2
鹿家漁港	17	16	18	22	21	20	19
(株)志摩海洋センター	53	54	54	56	55	51	48
合 計	274	262	260	264	262	254	249

資料:水産林務課

別紙-1 漁港施設長期整備計画

事業種別	事業名	漁港名	事業概要	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
国庫補助事業 令和3年度～ 令和6年度	漁場施設機能保全事業	福吉漁港	羽島沖漁場施設機能保全事業							
			機能保全計画策定業務	概 要	工事					
			消波ブロック工 L=135m 消波堤上部工 L=34.5m		消波ブロック工 L=32m					
国庫補助事業	漁港施設機能保全事業	各漁港	漁港施設機能保全事業 各漁港の浚渫、岸壁補修等	概 要						
					設計・委託	設計・工事	設計・工事	工事	工事	委託
					芥屋泊地測量 船越計画更新	芥屋浚渫、福吉岸壁 船越泊地測量	船越浚渫、物揚場 岐志泊地測量	岐志浚渫、岸壁	姫島護岸、岸壁	計画更新(福吉、加布里、岐志、芥屋、野北、姫島)
国庫補助事業	漁港施設機能強化事業 (岐志漁港) (福吉漁港) (野北漁港)	船越漁港	耐震・耐津波対策	概 要						
										設計
										船越岸壁測量
国庫補助事業	漁港施設機能強化事業	各漁港	漁港施設機能強化事業 各漁港の浚渫、物揚場嵩上等	概 要						
								設計	工事	設計
								船越防風柵測量 福吉泊地測量	船越防風柵 福吉浚渫	福吉物揚場測量 福ノ浦消波ブロック
国庫交付金事業 令和4年度～ 令和7年度	漁村再生交付金事業	姫島漁港	姫島漁港整備事業 南・東防波堤(消波施設)測量設計 東防波堤ブロック設置工事 L=60m 南防波堤ブロック設置工事 L=20m	概 要						
					工事	工事				
					南防波堤 L=6m	南防波堤 L=14m				
県単独事業	福岡県漁港等施設改修 事業	各漁港	漁港等施設改修事業 防風柵設置等	概 要						
					工事	工事	工事		工事	
					船越防風柵 姫島中波止	野北防風柵 姫島防舷材	野北防風柵		姫島防風柵	
市単独事業	野北漁港駐車場整備事 業	野北漁港	駐車場整備 駐車場舗装 沈砂池設置 排水工清掃等	概 要						
						設計	工事			
						駐車場用地	駐車場用地			
国庫交付金事業	海岸保全施設整備事業	岐志漁港	海岸保全施設整備 護岸嵩上	概 要						
										設計
										護岸測量

別紙-2 漁業生産施設長期整備計画

事業名	実施箇所	事業概要	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
福岡県水産業振興対策事業	本 所	共同利用施設の整備							
			概 要	設備整備 冷凍庫冷却設備			倉庫改修 漁具倉庫		空調整備 志摩の四季
福岡県水産業振興対策事業	福 吉	共同利用施設の整備							
			概 要	施設整備 漁船巻揚施設	施設改修 給油施設				
福岡県水産業振興対策事業	深 江	共同利用施設の整備					倉庫改修 漁具倉庫		
			概 要						
福岡県水産業振興対策事業	船 越	共同利用施設の整備							
			概 要						施設整備 荷捌所排水施設
福岡県水産業振興対策事業	姫 島	共同利用施設の整備							
			概 要		施設整備 漁船巻揚施設	設備整備 鮮魚運搬船	設備整備 鮮魚運搬トラック		
福岡県水産業振興対策事業	野 北	共同利用施設の整備							
			概 要					設備整備 鮮魚運搬トラック	
浜の活力再生・成長促進交付金事業	加 布 里 岐 志 福 吉 野 北	共同利用施設の整備							
			概 要	施設整備 加布里カキ小屋設計	施設整備 加布里カキ小屋建築			設備整備 岐志製氷機	設備整備 福吉製氷機
離島漁業再生支援交付金事業	姫 島	離島漁業再生支援交付金							
			概 要	補助事業 種苗放流 ロゴシール作成	補助事業 種苗放流 バーチ作成	補助事業 種苗放流 洗浄機導入	補助事業 種苗放流 養殖かご導入	補助事業 種苗放流 ハンドリフト導入	補助事業 種苗放流 クーラーボックス導入
漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業	漁 場	漁場生産力・水産多面的機能強化対策事業							
			概 要	補助事業 食害生物の除去 水域監視	補助事業 食害生物の除去	補助事業 食害生物の除去	補助事業 食害生物の除去	補助事業 食害生物の除去	補助事業 食害生物の除去
糸島市水産業振興補助金事業	漁 場	種苗放流 クロアワビ、赤ウニ、 クルマエビ、ヨシエビ、 アラ							
			概 要	種苗放流 32.8万尾	種苗放流 32.3万尾	種苗放流 32.3万尾	種苗放流 32.3万尾	種苗放流 32.3万尾	種苗放流 32.3万尾
糸島市漁場環境改善事業	漁 場	海底耕うん							
			概 要		海底耕うん 6km ²				
糸島市漁業経営持続化支援事業	-	機器等の購入							
			概 要		機器購入	機器購入	機器購入	機器購入	機器購入